2014.3.1

生誕150年 ドイツ・ロマン派最後の巨人 リヒャルト・シュトラウス 第1回

プログラム

今年はドイツ・ロマン派の最後に輝く巨星、リヒャルト・シュトラウスの生誕150年に当たります。この大作曲家の様々な作品を聴きながら、偉大な足跡を辿るシリーズの、今日はその第1回目です。

リヒャルト・シュトラウスは1864年6月11日にドイツのミュンヘンで生まれ、幼少から音楽教育を受け、6歳で作曲を始めたという天才でした。高名な指揮者ハンス・フォン・ビューローの目に泊まり、ウィーン国立歌劇場やベルリン・フィルの指揮者を歴任するなど、指揮者としても一流でした。リヒャルト・シュトラウスは各分野で作品を残しましたが、特に交響詩、オペラ、歌曲に優れた作品が数多くあります。交響詩では大管弦楽を自由自在に操り、豊かで色彩的な響き、生き生きと語られる性格描写が素晴らしく、オペラでは、大胆な作品からウィーン古典派的な作品まで、多彩な感情表現によって20世紀オペラの代表作を次々と書き上げました。150曲近い歌曲も近代ドイツ歌曲を代表する存在となっています。今回は交響作品と歌曲を中心にお聴きください。

最終楽章にナポリ民謡の“フニクリ・フニクラ”の旋律を使った初期の力作「イタリアから」。14世紀に実在したとされる伝説的人物の様々なエピソードをユーモラスに描写した中期の名曲「テイル」。交響詩としては最後の作品となった「英雄の生涯」は、自身の業績を振り返り、これまでの主作品の一部を引用しながら、雄大で感動的なドラマに仕上げた傑作です。このジャンルの名曲の一つに数えられるオーボエ協奏曲。「あすの朝」、「子守歌」といった6つの歌曲も代表的な名曲です。

＊＊＊＊＊＊＊

リヒャルト・シュトラウス（1864～1949）：

交響的幻想曲“イタリアから”～1.カンパーニャにて／4.ナポリ人の生活

リッカルド・ムーティ指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
（1989.1.17　ベルリン、フィルハーモニーホールでのLive）

オーボエ協奏曲ニ長調～抜粋

ローター・コッホ（オーボエ）／ズービン・メータ指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
（1983.11.27　ベルリン、フィルハーモニーホールでのLive）

交響詩“ティル・オイレンシュピーゲルの愉快な悪戯”

ディーン・ディクソン指揮フランクフルト放送交響楽団
（1974.4.5　ヘッセン放送協会大ホールでのLive）

＊＊＊ 休 憩 ＊＊＊

リヒャルト・シュトラウス（1864～1949）：

歌曲“夜”op.10-3

歌曲“私はただよう”op.48-2

キャスリーン・バトル（ソプラノ）／ジェームズ・レヴァイン（ピアノ）
（1987.8.26　ザルツブルク祝祭小劇場でのLive）

歌曲“たそがれの夢”op.29-1

ルネ・フレミング（ソプラノ）／クリスティアン・ティーレマン指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
（2011.8.7　ザルツブルク祝祭大劇場でのLive）

歌曲“献身”op.10-1

ルネ・フレミング（ソプラノ）／クリストフ・エッシェンバッハ指揮パリ管弦楽団
（2009.5.11　デンマーク放送コンサートハウスでのLive）

歌曲“子守歌”op.41-1

バーバラ・ボニー（ソプラノ）／マイケル・ティルソン・トーマス指揮サンフランシスコ交響楽団
（2003.4.23　デイヴィス・シンフォニーホールでのLive）

歌曲“あすの朝”op.27-4

ルチア・ポップ（ソプラノ）／井上直幸（ピアノ）
（1992.11.25　サントリーホールでのLive）

バーバラ・ボニー（ソプラノ）／マイケル・ティルソン・トーマス指揮サンフランシスコ交響楽団
（2003.4.23　デイヴィス・シンフォニーホールでのLive）

交響詩“英雄の生涯”～抜粋

英雄―英雄の敵―英雄の伴侶―英雄の戦場―英雄の業績―英雄の引退と完結

小澤征爾指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団/エーリッヒ・ビンダー（ヴァイオリン）
（1986.8.24　ザルツブルク祝祭大劇場でのLive）